

生駒市緑の基本計画改定懇話会 第1回全体会 議事要旨

1. 日 時

令和6年12月27日(金)14時00分～16時15分

2. 場 所

生駒市役所 403会議室

3. 出席者

【参加者】久隆浩、下村泰彦、松本光朗、木村篤信、田村康一郎(オンライン)

【事務局】みどり公園課 巽課長・高橋課長補佐・深瀬、(株)ヘッズ 田中・稲熊・岡本

4. 傍聴者

なし

5. 議事要旨

(1)開会

・担当課より開催趣旨等を説明

(2)出席者紹介

・事務局より出席者を紹介
・久氏を座長とすることを説明

(3)案件

・座長により進行
・緑の基本計画の改定について資料説明を事務局から行い、その内容について意見交換

① 生駒市緑の基本計画について

・緑の基本計画は、大きな方向性を示していくマスタープラン的な性質を持つ。
・生駒市総合計画を受けて生駒市緑の基本計画がある。総合計画では、より多くの市民が主体的にまちづくりに関わり、活動することが、将来都市像の実現に近づいていくと考えている。緑の基本計画でも、もっと市民が緑に積極的に関わってもらえるようにしたい。
・平成16年に策定した緑の基本計画でも、先進的な取組を数多くやってきた。今回の改定でも、他市にない先進的な計画になるように、知恵を出し合っていきたい。

② 計画改定スケジュール

・事務局から説明を行った。

③ 生駒市の緑の現状と成果・課題

・現行の緑の基本計画を策定してから20年が経ち、大きな状況の変化がある。気候変動や生物多様性、都市のレジリエンスの向上など、国の基本方針(資料p.13)に挙げられているような事を、今回の緑の基本計画の改定でどこまで触れるのか。
⇒本市の他の計画でカバーされておらず、緑の基本計画にとって重要なものは、改定にあたって議論すべき。

- ・生駒市にどう落とし込んでいくのか、具体的な例を挙げる方が市民の理解が進むのではないか。
- ・社会情勢の変化を踏まえた緑の機能の整理(資料p.15)について、気候変動や生物多様性、都市のレジリエンスの向上などは、「環境保全」と「防災」の機能の中で盛り込めるのだろうか。
- ・資料説明では、人と緑の関係の話が多かったが、緑の存在効果に関することも重要。緑を守っていく意義を共有しておく必要がある。
- ⇒今回の説明は、現行計画との違いに重点を置いたが、存在効果も重要と認識している。現在改定中の生駒市環境基本計画との整合性も図る。まずは安全・安心が重要で、そこを疎かにしてはならないと思う。
- ・よく言われる公園の存在効果は、東京や都市域を想定した内容のように思う。生物多様性についても、生駒市に稀有な生態があればまとまった生態系として積極的に守っていくことを視野に入れないと、生駒市にあった計画にならないのではないか。
- ・気候変動については、外で遊ぶことができない、秋がない、というような世界になってしまうことを避けていくという理解である。
- ・脱炭素は、吸収と貯めることの両方が大切である。民有林が多いという話であったが、森林環境譲与税を使って取組んでいける事もあると思う。例えば山林では、トレイルランニングやマウンテンバイクを通して山に触れる人が増えている。そういう人達と里山整備などができるといいと思う。
- ・グリーンインフラや自然による社会の問題解決(Nature-based Solutions)など、自然に対する価値観や機能が見直されてきているが、中学校や高校では、ほとんど自然や生物、環境問題について授業をしない。中高生が環境や自然にふれる経験の場を作っていけることを期待したい。
- ・全部同じような都市公園で、同じような管理をしていくことでよいのか。市民の方のお手伝いで、5年後10年後も維持管理していけるのか。各公園をどのようにしていくのか、最適化プラン、マネジメントを考えていく必要があるのではないか。
- ・平成29年の法改正により、生産緑地にレストランがつくれるようになった。農的空間も含め、新たな事業手法を用い、民間活力を導入した「賑わいの創出」も、新たな着眼点として盛り込んでおく必要はないか。

④ 改定方針・構成

●改定全般について

- ・従来型でベーシックなところをしっかりと押さえたうえで、新しい展開を付加していく観点がよいのではないか。
- ・どういうビジョンを目指しているかということがまずあって、市行政でする部分と、市民とボトムアップでやっていく部分がそれぞれ何なのかを示す必要がある。そのうえで市民とやっていくことの一部にリビングラボがあるという順番だと思うので、その全体像が分かるとよい。ビジョンを示すことで、関心を持たれる方や、ビジョンと重なる活動も生まれてくることよいのではないか。
- ・全ての場所を使う、活かしていくことが難しい中で、市内の緑に対して、こういう場合はこういう考え方であると、対象をはっきりと整理されていると、市民も入りやすいのではないか。
- ・計画に書いた事を全て行政が計画期間中にやらなければならないと考えてしまうと書きづらいつころもあると思う。確実にいつまでにできると決まっていなくても、やった方がいいことを、これから考えたい事として書いている例や、地域側がコミットできることを計画に書く例もある。例えば、三豊市では、こうなったらいいなということ、やってくれたら嬉しいこともセットにして、三豊未来マップとして書かれている(三豊市ベーシックインフラ事業)。

- ・例えば、レインガーデンの話など具体的に整備するとまでは書けなくても、そういう考えを持った上で防災減災について書くのとそうでないのでは、表現が違ってくる。具体的なことは書けずとも、考えは持っておく必要があるのではないか。
- ・対象とする緑について、プレイスメイキングなどを視野に入れていくのであれば、ベルテラスいこまのような駅前広場等も対象とするかどうか、検討されたい。「河川・ため池」の表現も改めておく必要がある。

●改定方針について

- ・創発は必要なことではあるが、P.19の図で方針の3つ目の柱に「ひろげる【創発】」が位置づけられているのは違和感がある。
- ・2本の柱「はぐくむ【保全・整備】」と「いかす【活用】」の下か横に、それらを進める手法として、「ひろげる【創発】」があるということではないか。
- ・市民の暮らしの視点で分けて、「はぐくむ【保全・整備】」とタイトルをつけてくくっているが、柱の立て方が違うのではないか。
⇒はぐくむという表現のブラシュアップが必要と感じている。市民が主であるような言い回しになっているが、公共の緑をレジリエンスや生物多様性に配慮しながら保ち、質を向上していくことを主にイメージしていた。
- ⇒暮らしの視点が全部に係ってきているというところが、違和感をお持ちの所だと思う。構成としては、ベーシックな存在効果の部分と、今後プラスでやっていく事の両輪が見える形で組んでいきたい。
- ・市民の暮らし目線ではなく、より広域的な目線や行政的な観点が強く入ってくるインフラの側面と、市民が実感的に捉えられる活用の側面とでは、大きく目線が違う。そのバランスをどうとっていくのかというところが、行政計画の中で位置付けられ、それが見えやすい形になっていると良いと思う。

●改定構成について

- ・第3章の基本方針は、公園の配置計画までとはいかずとも、都市公園をはじめとして地域別の計画を示しておく必要があるのではないか。
- ・インフラに対する将来像があればよいと思う。緑化重点地区の一手前くらいの構成を示しておく必要がある。
⇒インフラについて盛り込んだ基本方針を作っていく必要があると考えている。
- ・基礎データを共有し、第3章と第4章の間を、それぞれどのように現況から結び付けていくのかを入れておく必要がある。
- ・地図に基づく内容が薄く、地域や住区で見た時にどうかというところが見えない。
- ・従来の生駒市緑の基本計画のように場所ごとの構成だと、農地のこともわかりやすい。
⇒構成を場所ごとにすると、同じような取組みを複数の節に何度も書くことになってしまうので、構成については悩んでいる。引き続きご相談させていただきたい。
- ・対象とする場所別より、地域別の構成がよいのではないか。地域別の目標像とライフスタイルがマトリックスで示せるのではないか。

6. 閉会

- ・事務局より挨拶と今後の案内

以上